事業を拓くチャレンジャー(経営者･起業家)を支援します！

GMS Global Management Supporting Partners

特定非営利活動法人
チャレンジ企業支援隊 会報

Vol.21　2017年1月26日
発行:理事長 山崎健一郎　　編集(広報担当):副理事長 馬塲英彦
TEL&FAX 0742-41-7839　　TEL 0743-75-1658　E-mail bamba@m4.kcn.ne.jp

巻　頭　言

（理事長　山崎健一郎）



新年明けましておめでとうございます。昨年中に皆様方から賜わりましたご支援とご協力に対し厚く御礼申し上げます。

昨年度は、各部会で新しい事業に、積極的にチャレンジ頂きました。特に**関西産業活性協議会(KIAC)のメンバーとして、**その事業に積極的に、参画・支援させて頂きました。

さて、今年はどんな年になるのか。株式相場の格言では**「申酉騒ぐ」**と言われ、申年と酉年は株価の上下が激しくなると言われます。

又、マスコミ等の新年の予測では、米国のトランプ大統領の就任、英国のＥＣ離脱交渉の開始、仏独の選挙、韓国の大統領弾劾などが、世界情勢にどの様な影響を及ぼすかは、**不確実で予測が困難な状況にある**との論調が主流であった様に思います。**社説で「私たちは、歴史の曲がり角に立っている。」**と述べている新聞もありました。

チャレンジ企業支援隊（ＧＭＳ）では、年初にあたり**「これから2～3年先のあるべき姿」**を、全員で考えて行く事に致しております。その場合も**「GMS運営理念」**を堅持して、事業の推進を図って行く事が肝要であると決意致しております。

＜チャレンジ企業支援隊　運営理念＞

社会貢献を基本精神とし、人的なネットワークと連携を大切にしながら、会員の経験・知識・専門技術を活かし、中小企業やベンチャー企業などの支援を通じて、経済社会の活性化と地域社会の健全な発展に寄与する事を目指す。

私の好きな言葉である**「受けた恩は石に書き、与えた恩は砂に書く」**を心構えとし、**関西の元気回復のため、お役に立てるよう尽力して参ります。**引続きのご支援とご鞭撻をお願いし、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

モノづくり部会の活動内容と抱負

（副理事長　モノづくり部会長　阪本　徳男）



平成２９年度のモノづくり部会は、次の６つの活動を柱に取組んで行きます。

１）モノづくり部会（毎月開催）

部会行事打ち合わせ･各員の活動状況相互紹介・情報連絡に加え会員のＧＭＳ以外のＮＰＯ活動、イベント参加報告、デジカメ・PC教室を行っています。今後内容の充実を図り、共有課題を論議して行きたいと思います。

２）ＧＭＳ経営勉強交流塾

基本的な考え方は「企業一社では訪問が困難な企業訪問をＧＭＳが訪問先を選定・準備を行い、企業の優れた点を工場見学で学び、質疑応答で自社の経営課題の解決を導く参考とする。」を目的としています。昨年は２月に大阪市、７月に東大阪市の企業様を訪問させて頂き、会社概要、工場見学さらには課題などについてお話を頂くと共に、ＧＭＳ会員の発表と相互意見交換を通じて課題解決の糸口を探って頂きました。今後は新しいヒューマンネットワークで新訪問企業の設定と新参加企業の勧誘にも力を入れていきたいと思います。



第３３回経営勉強交流塾 工場見学

３）経営実践塾

具体的な事業課題に焦点を当て、実践的な塾活動を行います。経営実践塾とする事により、研修ではなく仕事とすることの位置づけを明確にします。事業課題に関与している、あるいは関与させたい開発・生産・販売等の選抜責任者でチームを編成し社長出席のもと、定期的、継続的な「実践塾」で

あり、経営に関する幅広い知識が身につき、経営感覚を磨ける。2015年1月より大阪市内の企業様で実施、2017年も継続の予定で、2016年10月には**会社創立以来初めての社員全員参加の事業方針説明会、**5Sキックオフ 、5S宣言、取組内容発表会にも参加させて頂きました。更なる努力で成果を求めていきたいと思います。



事業方針説明会 記念写真

4）中小企業様の経営・事業開発支援

大阪の企業様に支援として「商品計画・商品企画の支援」を約4年間実施し、非常に密な連携で企業様の根幹である経営課題の支援までも実施させて頂いております。



検査治具・作業の改善提案

2017年も継続予定で、今後は更なる現場の課題解決支援、新たな企業様の事業開発支援もさせて頂くよう検討していきたいと思います。

5）関西産業活性協議会（ＫＩＡＣ）との連携

近畿経済産業局公募事業に関し、公募説明会から参画し、受託事業のCDとして調査事業に参画させて頂いており、今後はモノづくり部会の衆知を集めて参画したいと思っています。

6）革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金申請支援

新しい取り組みとして、公募説明会、セミナーに参加し、昨年2月から具体的な申請書作成支援トライアル、11月には中小企業等経営強化法セミナー参加すると、共に11月から大阪市の企業様の支援を実施しています。今後は支援内容の充実と企業様の拡大を図っていきたいと思います。

最後にモノづくり部会は**伝統と革新のベストミックス**で活動を行います。皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

マーケティング部会の活動内容と抱負

（副理事長 マーケティング部会長 馬場　英彦）



当部会では毎月の部会を中心に下記の活動を実践し、本年はさらにメンバーが持つノウハウ集団の結集力を発揮し、地域社会に貢献して参ります。特に新規分野にチャレンジする企業様や中小企業様の経営・商品開発・マーケティング・販路拡大・人材教育など多岐に亙る分野への深掘り支援を準備しております。

1）Ａ社様の経営支援

昨年に引き続き、トップ経営幹部との『経営研究会』をはじめ、「中期経営戦略の構築」や、「超・高付加価値商品」の開発支援。「工場革新プロジェクト支援」に加えて、本年度はさらに長期的視野に立ったブランド戦略へのお手伝いなど、幅広くお役立ち貢献を目指して参ります。

2）ＫＩＡＣプレゼン会活動

昨年９月から、年３回の予定で、ＫＩＡＣの主催で企業様支援の一環としてビジネスマッチングのプレゼン会がスタートしました。第１回は珈琲の渋皮除去器の販路拡大支援、第２回はデジタルサイネージ等サイン事業のご紹介など部会メンバーが積極的に活動に参加し、



昨年１１月開催のプレゼン会

企業様から大変喜ばれております。本年度も既にプレゼン候補企業の予定があり、準備にかかっております。

3）川上・川下ビジネネットワーク事業の支援

兵庫県下の信用金庫協会様との連携で、意欲ある中小企業様を訪問し、当社の経営課題やニーズ・シーズを発掘しその企業に相応しい企業様とのビジネスマッチングや販路開拓等マーケティング課題に対して支援活動を行っています。本年度はさらに奈良県へも拡大の予定です。

4）季刊誌への編集支援

暮らしの視点を大切にした「子育て」「親子」「夫婦・家族」などの課題に取り組む団体を支援する季刊誌

「おうらい」のイラストや取材協力を通じて「読み聞かせボランティア活動」を支援しています。

５）マーケティング部会の開催

当部会では毎月第１木曜日に、私が所属している大阪市立デザイン教育研究所をお借りして実施しており、１月で第１４８回を迎えました。



熱心にメモを取る学生

当校のデザイン学生も参加し、毎月十数名のメンバーで活動の情報交換をしています。昨年はこれから就活に入る学生を対象「ミニ講演会」として、会員や関連スタッフの得意分野を通じた講演を実施し好評を得ています。

『奈良県よろず支援拠点』発足から二年半経過

奈良県よろず支援拠点コーディネータ

（理事　松村二郎）



事業担当理事の松村です。今年もどうぞよろしくお願いいたします。2014 年 6 月に中小企業・小規模事業者の為の経営相談所として各都道府県に一か所設置され、全国一斉にスタートしたよろず支援拠点は、発足して２年半が経過しました。私が責任者（チーフコーディネーター）を務める奈良県よろず支援拠点では、その間、2,000 を超す事業者の訪問を受け、8,000 件を超える経営相談がありました。

2016 年４月末には、**交通至便な近鉄奈良駅前によろず支援拠点単独のサテライトオフィスを開設**しました。夕方や土曜日にもオープンして事業者皆さんの便性をアップし、また週２回以上の頻度で奈良県や各支援機関と連携したセミナーや相談会を実施しています。



よろず新拠点（近鉄奈良駅前）

このような活動により、よろずの知名度が非常に高まってきていることを実感する毎日で、身の引き締まる思いと共に、しっかりと事業者の方々に寄り添い成果があがる支援をしなければならない、と改めて決意しているところです。

平成２８年度の相談内容の内訳は「売上拡大」が全体の５０パーセントを占めています。また、「創業」が３８パーセンを占めており、多くの創業予定者の方が相談に来られています。最近は入居施設の提供や補助金など国、県、市町村の創業支援策の充実が図られており、**今後更に創業相談は増加してゆくと思われます。**

今年度の活動目標について

１）奈良県中小企業・小規模事業者支援のハブ機能を強化する

２）オール奈良の創業支援の窓口機能を強化する

３）フォローアップの徹底により、お客様満足の向上を果たす。

の三点で、私とサブコーディネーター（経営相談の専門家）１２名、事務スタッフ２名の１５名体制で対応にあたっています。

本年４月から事業４年目を迎えることになり、当拠点のパワーを更にアップし、事業者に徹底的に寄り添い、経営課題を事業者の皆様と一緒に解決し成果をあげてゆくことを力強く推進してゆきたいと思います。

皆様のご理解とご支援を、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

けいはんなまちづくり協議会の事務局活動

けいはんな学研都市精華地区まちづくり

協議会　事務局長

（理事　井原　章）



けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会（会長：(株) 井上製作所 代表取締役 井上 茂氏）は、2009 年（平成 21 年）８月に設立され、けいはんな学研都市の精華地区に拠点を構える企業が会員となり、学研都市に相応しい環境を維持発展させるとともに、企業間相互の連携を深め地域の発展に寄与する目的で活動を行っています。現在の会員数は 29 社です。

ＧＭＳは、精華町からの要請で設立時から事務局を担当しており、協議会として必要な運営規約や規

程などの制定や協議会の目的を効果的に達成するための具体的な活動提案と実施をマネジメントし、協議会活動の活性化に貢献しています。

これまでの成果としては、世界一の日時計（ギネス登録）から北極星目がけて照射されるレーザー施設の復活を主導し**地域住民との連携を強化することができた事**、ボウリング大会や交流・懇親会の実施の提案と定着化で**会員の従業員間の親睦意識の醸成ができた事**、などがあります。

特に近年は、学研都市で働く仲間の利便性向上や安全面の確保を主眼とした交通インフラの早期整備を行政や関係機関に要望し、**バス増便の実現と併せて屋根付きバス停の設置、交通事故が多発していた北側道路交差点への信号機設置、などが実現できました。**また、会員企業による地域の美化活動や交流懇親会、ボーリング大会などもしっかりと定着し、協議会活動が益々活性化しています。



屋根付きバス停の設置



事故多発の交差点に信号機設置

今後も事務局として けいはんな学研都市の発展に積極的に貢献する活動を企画し実施して行く予定です。

昔も今も同じ、歌舞伎のマーケティング活動

関西・歌舞伎を愛する会　事務局長
（理事　川島靖男）



今、江戸時代が見直されている。江戸時代と言えば、鎖国・士農工商・百姓一揆・幕府の圧政・・などと暗い時代のような教育をされてきたが、事実は全て逆である。長崎出島を窓口にオランダと貿易、交流がされており、また、対馬と朝鮮・薩摩と琉球・松前と蝦夷と貿易がされるなど、決して国を閉ざしていたわけではない。２６０年以上も続いた平和な時代。武士が貧しく町人が豊かに輝いていた時代。世界の中でも最も豊かな時代であった。**元気な町人が独特の江戸文化を創造し、その中心にあったのが歌舞伎であった。**

歌舞伎は流行の発信基地であり、役者の衣裳や色と柄は町民が、競って身に着けた。劇場主は、最大の娯楽商品である歌舞伎を、**どうして宣伝し集客するのかに知恵を絞った。**役者の浮世絵はブロマイドであり、大量に摺って入場券販売の営業活動をした。

ちなみに、慶応３年（１８６７）第２回パリ万博に出展された浮世絵などは大好評を博し、モネ、ゴッホ、ルノワールなどが浮世絵を模写し印象派が生まれた。

劇場前は、**出し物の絵看板で飾ったり、役者の名前を書いた、まねき看板（お客様を招く）で興行の雰囲気を盛り上げた。**京都南座、顔見世興行で掲げられる、まねき看板の独特の書体は勘亭流と呼ばれている。書道指南の岡崎屋勘六が考えた書体であり、本人の号が勘亭であったため勘亭流と呼ばれている。

昔の劇場は椅子ではなく、平場の升席に５人ほど入っていた。お客さんが大入り満員になりますようにとの縁起を担ぎ、筆太に隙間なく、途中で帰ってしまわない様に、文字は内側に曲げて撥ねるなどの考えで考案された書体である。



劇場前の招き看板・絵看板

電気もテレビも無い時代であったが、**昔も今も、マーケティング活動は同じであると言える。**

ちなみに舞台では、劇中 CM が堂々とされていた。東海道五十三次、小田原外郎（たん切り、口臭予防の薬）の **PR を長々と述べた、二代目市川團十郎は、CM タレント第一号と言われている。**

編集後記

１月６日の産経新聞のコラムに興味ある記事があった。

作家で美術評論家の海野弘さんは「**足が未来をつくる**」で、歩くことの文化的意味を説いた。テレビによって世界の果てまで同時に見ることができ、インターネットであらゆる情報が手に入る。現代はあまりに視覚中心の社会になった。―中略―　**見と言う字は目に足がついている。目だけでは見ていると言えない。**今年は、歩く（行動する）事によって、新しい考えを生み出す年にしたいと思っている。　（山崎）